

「ル・コルビュジェの墓碑」をモチーフとした記念碑の制作

八代研究室

01412030 大山 加那子

1. はじめに

ものづくり大学の調整池の畔には 2011～13 年度卒業制作の「カップ・マルタンの休暇小屋」とそれに付属する 2016 年度制作の「アトリエ」の原寸レプリカがある。また現在両者へのアプローチの踏石として、かつて調整池に架けられていた「浮橋：坂東太郎橋」（2008 年度 3 年実習授業「構造物総合および実習」で制作）が転用されている。本計画では、ル・コルビュジェ自身が設計した「ル・コルビュジェの墓碑」をモチーフとして、「休暇小屋およびアトリエ」と「浮橋」のための記念碑を制作した。

2. 「ル・コルビュジェの墓碑」について

「墓碑」はコルの妻が亡くなった 1957 年、「休暇小屋」の北方 600m の急斜面にある、地中海を一望できる墓地の一画につくられた（図 1）。形状は一辺 2m の正方形で、一部をコンクリートで平らに仕上げ、その上に矩形の墓石と円筒形のフラワーポットが並置されている。墓石はル・コルビュジェ自身を、円筒は妻イヴォンヌをそれぞれ表象している。墓石の銘版にはエナメルで焼き付けられた地中海の水平線が描かれ、土間部分は手前には小石が敷き詰められ、奥は植栽がなされている。またコンクリートの表面には数カ所貝殻などの陰刻が施されている。

3. 施工図面の作成

制作にあたり、実物の「墓碑」の写真（図 1）とル・コルビュジェ財団編『Le Corbusier plans 14』に掲載の設計図（図 2）を参考に、図 3 の施工図面を作成した。実物（図 1）と設計図（図 2）の大きな相違点として縁石の有無があげられる。図 2 の設計図には縁石が描かれていないが、本制作では図 1 の実物通り幅 90mm の縁石をまわした。なお、実物では縁石に 3 カ所目地が入っていたが、本制作では縁石と L 形の平面を鉄筋で補強し一体で打設し目地無しとした。また小さな相違点として、図 2 の設計図では墓石上面の陰刻装飾は輪形だが、実物は U 字形であったため、本制作においても U 字形を採

用した。なお、ル・コルビュジェの設計にはいわゆるモジュロールなどで黄金比が用いられることが多く、「墓碑」においても図 3 に示すように、平面と墓石立面に黄金比が認められた。

4. 制作

制作物の設置位置は、図 4 の敷地図に示すように、学内の歩道から見て「浮橋」のアプローチの延長上、「休暇小屋」と「アトリエ」の中間とし、既存の楓の木が土間部分に残るように配置した。制作過程を図 5.1-7 に示す。構造は縁石と床板部分に D10 異形鉄筋とワイヤーメッシュを入れ、鉄筋コンクリート造とした。また、型枠にはコンクリートパネルを使用し、それに加え円筒形のフラワーポットの型枠にはφ350 とφ200 のボイド管を用いた。φ350 ボイド管を使用するにあたり、円筒幅が実物より 20 mm 増すため、今回はφ350 ボイド管に加工した栈木を取り付けて外径寸法を調整した。コンクリート打設後、養生期間を取り、10 日目に脱型をして補修を行った。最後に「休暇小屋」および「浮橋」の制作銘版をそれぞれが見える位置に、すなわち「休暇小屋」の建築基準法確認済証を墓石の正面に、また「浮橋」の銘版 2 枚を墓石の背面に設置した。

5. おわりに

本制作では、ル・コルビュジェ自身が設計した「ル・コルビュジェの墓碑」をモチーフに「休暇小屋およびアトリエ」と「浮橋」のための記念碑を鉄筋コンクリートで制作した。

末筆ながら、制作にあたって親身のご指導いただいた町田清之氏と石井哲也氏、また制作協力いただいた研究室の同級生や後輩たちに心から感謝の意を表します。

【参考文献】

- ・ Fondation Le Corbusier 『Le Corbusier plans 14』DVD-ROM 2005
- ・ 吉野弘 『ル・コルビュジェを歩こう』エクスナレッジ 2002

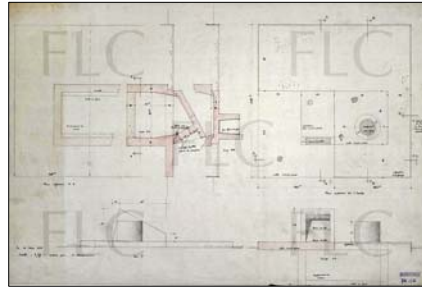


図1 ル・コルビュジエの墓碑

図2 平立断面図(flc24808)

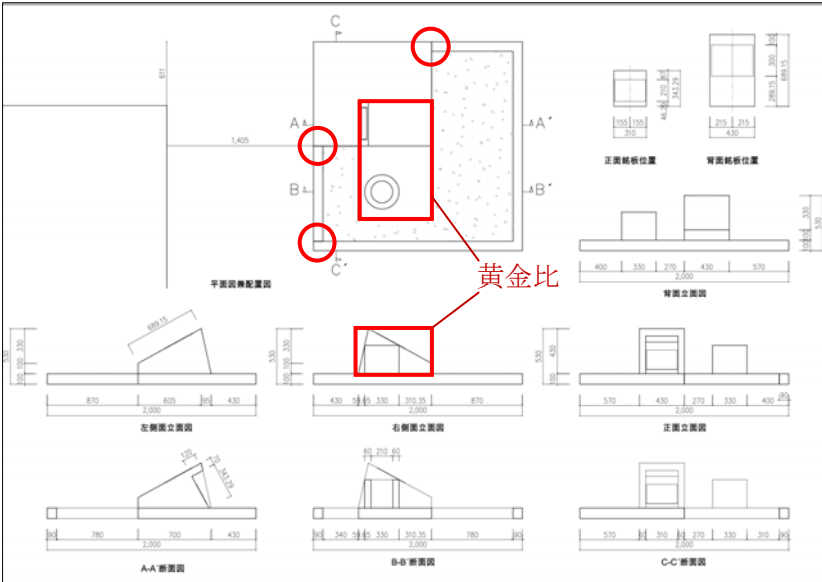
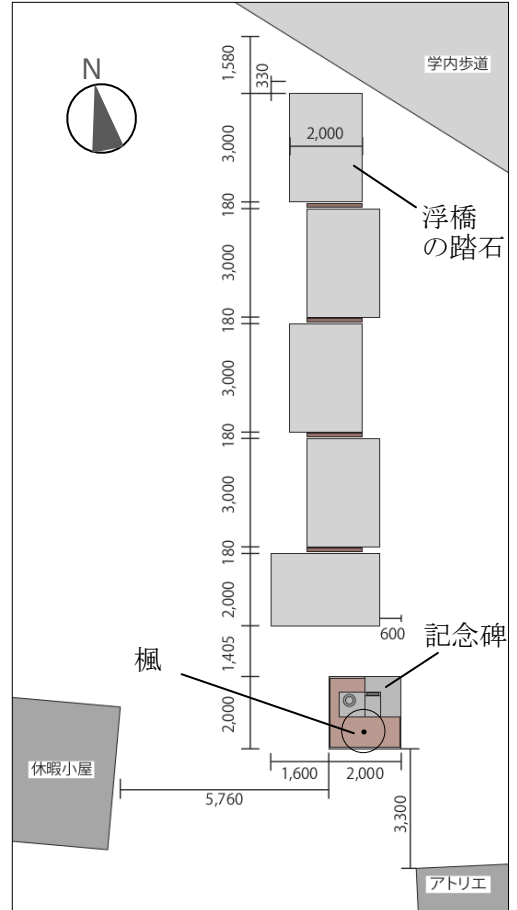
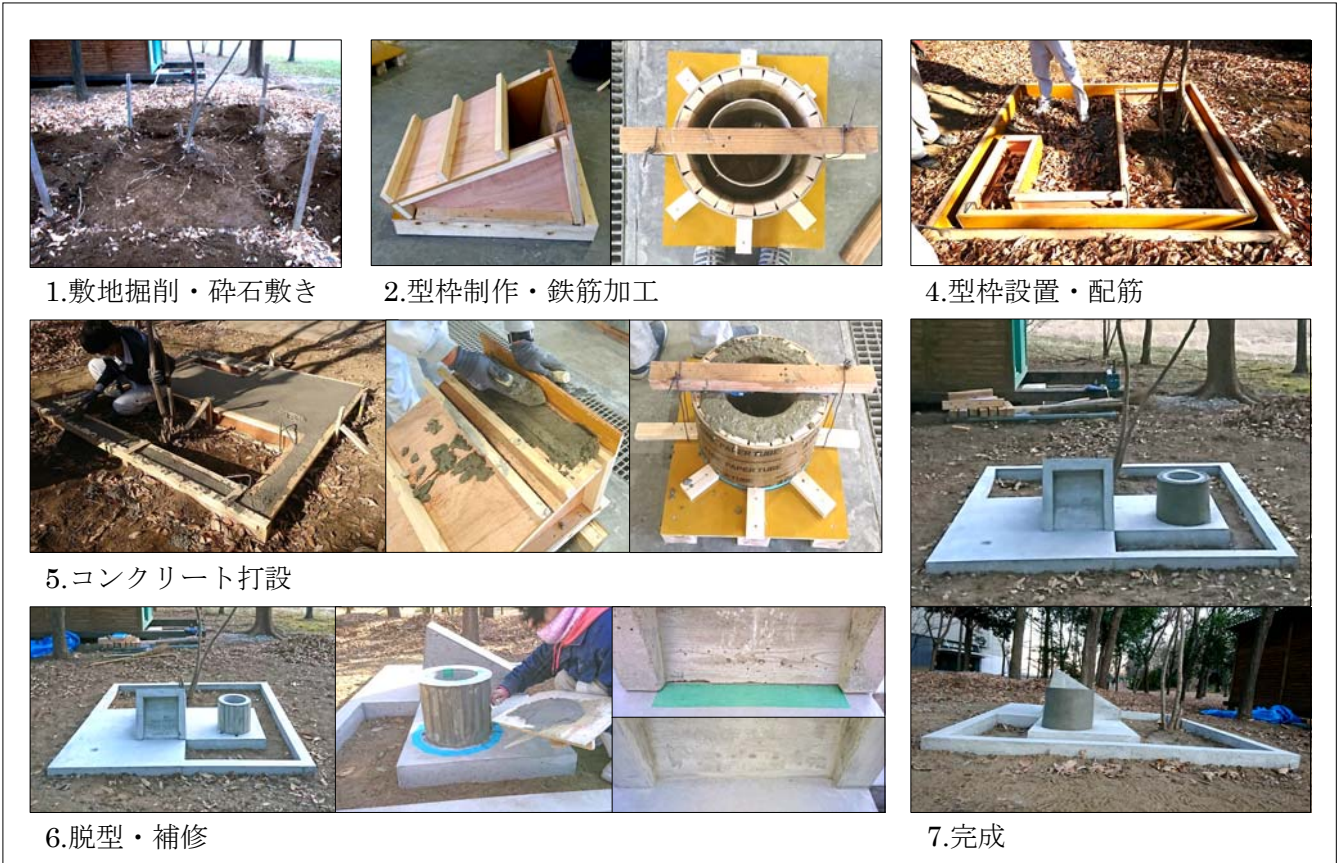


図3 施工用図面

図4 敷地図



1.敷地掘削・砕石敷き

2.型枠制作・鉄筋加工

4.型枠設置・配筋

5.コンクリート打設

6.脱型・補修

7.完成

図5 制作過程